

1. また、テアテラにある教会の御使いに書き送れ。『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子が言われる。(2:18)
 - a. テアテラはとても小さい町だったので、その教会は7つの教会のうちでも小さいほうであったと思われる。7つの教会への手紙のうち、最も小さい教会に宛てられたものが最も長いというのは興味深い。
 - b. イエスはご自身のことを「燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子」と紹介されている。ここではイエスの権威を強調するために「神の子」という言葉が使われている。
 - c. 権威を受ける勝利者となるまでには、イエスの燃える炎のような目による審査にパスしなければならない。火というのはしばしばふるい分けられていくテストの象徴である。そしてしんちゅうのような足はイエスの罪に対するさばきあるいは悔い改める者に対する赦し（荒野で蛇にかまれたイスラエルを救った青銅の蛇や、幕屋の外庭にある贖罪のための青銅の祭壇）の象徴かもしれない。

2. 「わたしは、あなたの行ないとあなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っており、また、あなたの近ごろの行ないが初めの行ないにまさっていることも知っている。(2:19)
 - a. テアテラの教会はすばらしい教会であった。教会にとって最も大切な愛を持っていただけでなく、信仰を持って人々に奉仕し、時が悪くなくても忠実であり続ける忍耐を持っていた。誰でも何かを始める時は熱意を持ってするが、それを持続するための忍耐というのはまた別のものである。
 - b. 彼らは多くの良い働きをただけでなく、成長していった。エペソ教会のように初めは良かったけれども時間が経つと愛から離れてしまうというようなことはなかった。

3. しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは、イゼベルという女をなすがままにさせている。この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて誤りに導き、不品行を行なわせ、偶像の神にささげた物を食べさせている。わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は不品行を悔い改めようとしない。(2:20-21)
 - a. この教会は御霊の実の一つ、忍耐を持っていたが、その辛抱強さもある時一線を越え、罪が入り込むのを許してしまった。
 - b. 人の罪ある行動に対して自制、平安、寛容、親切、善意、柔和から何もしなかったり言わなかったりするのと、無関心、拒絶される恐れ、人の恐れから何もしなかったり言わなかったりするのには大きな差がある。一方は聖霊からで、もう一方はそうではない。テアテラ教会はイゼベルの女に対して後者の理由により何も行動を起こさなかった。
 - c. テアテラの成熟したクリスチャンたちはおそらくイゼベルのことを知っていて彼女に関わらないようにしていたが、彼女を容認していたため、墮落してしまった者たちがいた(22-23節)。

4. 勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与えよう。彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。また、彼に明けの明星を与えよう。耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」』(2:26-29)
 - a. 勝利を得る者には権威が与えられると約束されている。パウロは、すべての被造物が神の子が現われるのを待つと言っているが、「神の子」というのはローマの法律用語で父の代わりに息子がビジネスの手続きをさせてもらえる、という意味がある。